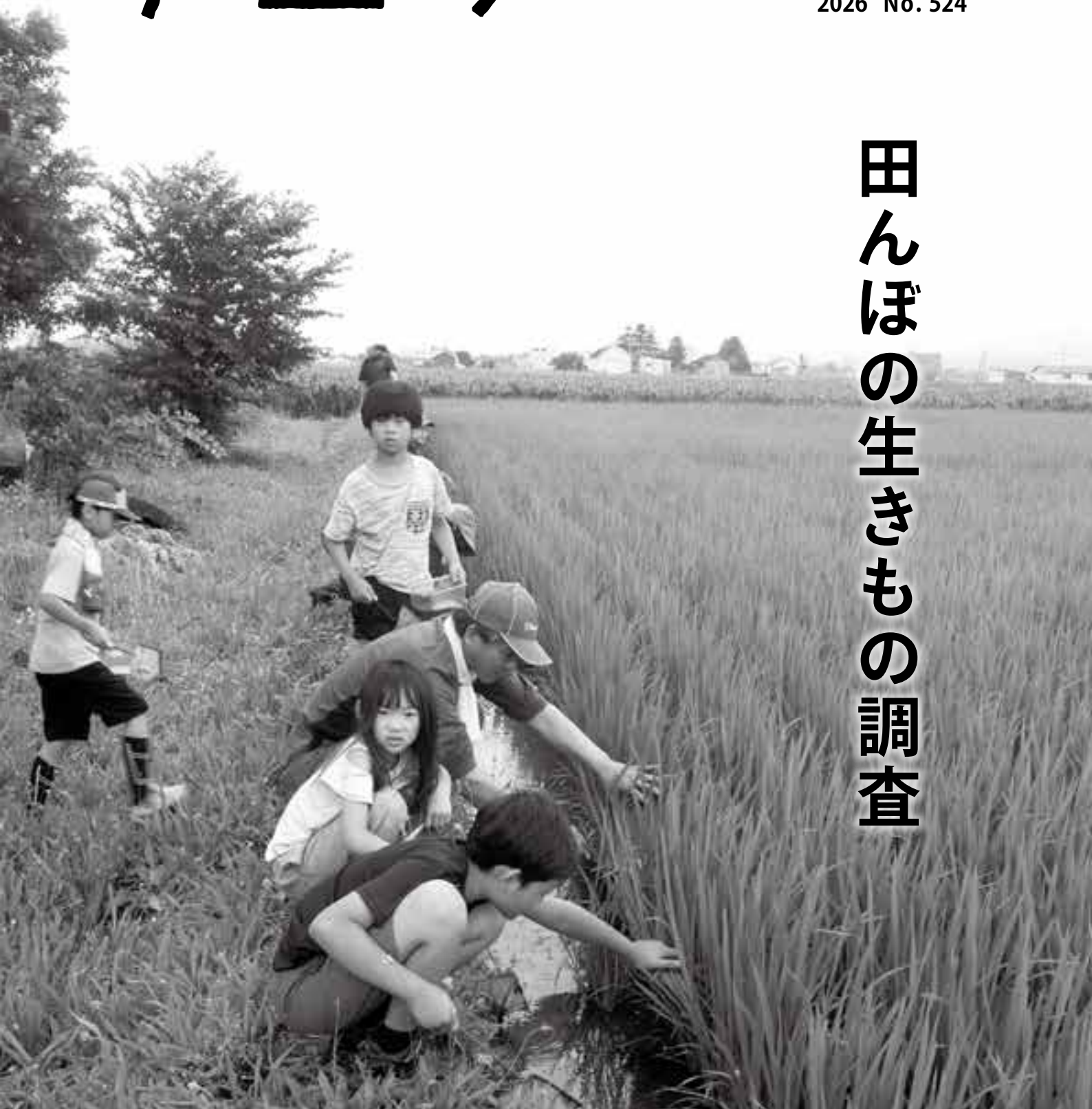


田んぼの生きもの調査



生活クラブ米の生産者「とんぼの会」の皆さんと生きものを探し、その役割について学びました〈主催：本部消費委員会〉

INDEX

田んぼの生きもの調査 2
私たちのお米を食べ続けよう！

2026 ナガサキ平和行動報告 4～5
今こそ、平和を考えよう

生活クラブのある暮らし 3
テーマ：米

2026 幌延サマーキャンプ報告 6
北海道に核のゴミはいらない！



とんぼの会の名前の由来である赤とんぼは、害虫を食べて稲の成長を助けてくれます。



生活クラブ米は、農薬成分回数を慣行栽培の半分以下の8回以内にするなど、厳しい基準で栽培されています。農薬を減らした田んぼにはヤゴやカエルなどの生きものが集まり、豊かな生態系が見られます。

当日は、みんなが集めた赤とんぼのヤゴやアメンボ、ゲンゴロウ、ドジョウなどを、「とんぼの会」平澤一彦さん(写真右から3人め)が説明してくれました。
〈7/18 滝川市江部乙町〉



たくさんの生きものが棲む 田んぼのお米



2025 年度産米は
10 月注文 11 月配達分から値下げし、
3kg 規格にも取り組みます。

私たちのお米を食べ続けよう！

生活クラブは、結成30年目を迎えた「とんぼの会」とともに、北海道の米づくりと農業の発展をめざして交流を重ねてきました。生産者にとっては将来の営農を見通せること、消費者にとっては産地を知り、国産優先で食べ続けられることが大切です。

しかし現在、市場においては消費が伸び悩み、2025年度産米の在庫が積みあがっている状況です。生活クラブ米も同様です。私たちが「こんなお米を食べたい」と願い作ってもらったお米。これからも食べ続けながら、毎日の食卓から産地を応援していきます。

〈常勤理事 多田 健介〉



生活クラブのある暮らし

もっと楽しもう

テーマ：米

「今日のごはん、何にしよう…」。栄養バランスも気になるし、品数もそろえたい。でも、がんばりすぎなくても大丈夫です。

ごはんがあれば大丈夫！



ごはんは、体と脳のエネルギー源

ごはん(炭水化物)は、仕事や勉強に集中するためにも欠かせません。糖質を気にする人も多いですが、極端に減らすのではなく毎日適量を食べることが大切です。

ごはんって実は優秀！

油脂を使っている他の主食に比べ、脂質を自然とカットできます。もち麦を加えると栄養バランスがアップ。水溶性食物繊維のβ-グルカンが腸内細菌のエサとなり、腸内環境を整える働きが期待できます。



プチプチ、もちもち食感♪

江戸乙産「もち麦」

一汁一菜で、じゅうぶんおいしい

料理研究家の土井善晴さんは、「一汁一菜」を提案しています。ごはんといくさんのお味噌汁、あとは納豆や卵、お漬物があればじゅうぶんです。



みそ汁の具は何でもOK。
残り野菜を浅漬けに！



「浅漬けの素」



消費材には、ごはんのおともが
たくさん♪

「ちゃんと作る」より、「ちゃんと食べる」

添加物をできるだけ使わない生活クラブの消費材を選んでいく時点で、もう合格点！毎日ごちそうでなくてもいい。シンプルだけど安心・安全な食卓が体を整え、暮らしを支えてくれます。

家族みんな大好き！生活クラブ米

「体は食べたものでできている」という思いから、安心・安全で信頼できる生活クラブのお米を購入し始めました。生産者さんの田んぼイベントに参加したことがある息子も、生活クラブ米が大のお気に入りです。炊きたてのご飯に生卵と少しの醤油を落とした卵かけご飯は、我が家にとって最高のご馳走です！

(西支部 馬場 夏海)



今こそ、平和を考えよう

「核兵器と人類は共存できない」という理念は日本国憲法が掲げる平和主義の核心ですが、力こそ正義といわんばかりの世界の流れに、日本も飲み込まれる危機感を抱かずにはいられません。29回目のヒロシマ・ナガサキ平和行動は長崎へ。今年も、組合員のカンパで4名を送り出すことができました。

戦争は他人事では ありません

恵庭支部 須藤香

以前、一人で広島の前爆ドームを見学したことはありますが、ナガサキ平和行動は個人では得られない体験ができると思います。参加しました。

1日目はまず、松本美都恵さんから被爆体験を伺いました。自宅から6キロ離れた疎開先へ向かう途中、爆心地側で働いていた叔母を訪ねたこと、目的の地に着いた瞬間に被爆したと。出発が1時間遅ければ命がなかった、叔母は行方不明のままだったということ。被爆当時3歳だったので両親から聞いた話も織り交ぜながら、二度と戦争をしないために、貴重なお話をしてくれました。



案内人の白石克文さん（左から2人目）と



高校生平和大使とは、核兵器廃絶と世界平和の実現を訴えるため全国から選ばれ、活動する組織・代表

人の白石さんと原爆落下中心地から平和公園までを歩き、被爆直後は遺体で埋め尽くされていた川、瓦礫の地層、浦上天主堂の遺壁などを見学しました。白石さんのお母様も15歳で被爆し、その後髪が一本も生えずウィッグを使っていたそうです。

2日目の軍艦島は台風の影響で上陸は叶いませんでしたが、

船から間近に見ることができました。1955年の軍艦島を舞台にしたドラマ『海に眠るダイヤモンド』を観ていたので、廃墟となった町並みからかつての生活を想像し、深い感慨を覚えました。

高校生平和大使との交流（写真）では、北海道の當麻さん・高野さん、長崎の中尾さんが自分の思いをしっかりと語る姿が印

長崎で学んだ 平和の大切さ

北広島支部 濱塚雪那（中2）

私は2泊3日の平和行動に参加して、いろいろなことを見て学びました。最初に被爆者の方から被爆証言を聞きました。私がつても昔のことだと思っていたけど、被爆者の方からすると少し昔の子どもの頃の記憶なのだと思います。また、原爆を体験し、自分が感じたことを伝えたり話したりしてくださる方々がどんどん少なくなっていくってしもうんだなと思いました。

人権平和資料館では、中国人捕虜への虐待の様子や人骨が写る写真に大きなショックを受け、途中から見るができなくなりました。原爆資料館も怖くてあまり見れませんでした。

ここで感じた衝撃を忘れずに、平和の大切さを感じていきたいです。

私が強く印象に残ったのは被爆クスノキです。植物の木とは思えないほどしっかりと生きて、強く、少し神聖な雰囲気を感じていました。そして、大きな存在感がありました。原爆が投下された時、熱い熱線で黒焦げに、強い爆風で幹に石がめり込んだにもかかわらず枯れずに生き返り、復興しようとする人々の支えになったそうです。私はそんな凄いことはできませんが、部活などを頑張る、またこういう機会があれば参加するようになりたいです。

旅の行程（8月7～9日）

- 7日：被爆証言
フィールドワーク
- 8日：軍艦島周遊クルーズ
高校生平和大使との交流
長崎人権平和資料館・長崎原爆資料館
- 9日：山王神社の一本柱鳥居・被爆クスノキ見学
長崎平和祈念式典



原爆の模型を前に

たその辺り一帯の写真もありました。樹齢五百年以上のこのクスノキは、長崎のたくさんの歴史を見ています。多くのキリシタンが処刑に向かう列、被爆した

長崎人権平和資料館では、日本軍による朝鮮・中国人への虐待や強制労働の記録を学びました。中国人捕虜の首を今にも切り落とそうとしている写真や、あちこちに横たわる首のない死体を日本人の大人や子どもが見ている様子が写っていました。案内の新海さんから、戦時中の軍艦島に劣悪な環境で強制労働をさせられた中国人居住区があったことを聞き、軍艦島のイメージが一変しました。戦争は

象的でした。中尾さんは、長崎で多くの学校が8月9日に行う平和授業を自分の通う高校が行わないことに疑問を感じ、自ら先生に働きかけ、授業を担当することになったそうです。當麻さんと高野さんも、全国の平和大使と一緒に活動するなかで相談や共感し合うことができ、自分たちの活動に意欲が持てると話してくれました。

3日目に訪れた山王神社の手前にある写真館には、被爆前に鳥居の下で撮った地域の人達の集合写真が展示されていました。被爆後、右半分の柱だけとなった二本柱鳥居や黒焦げの被爆クスノキ以外、何もなくなっ

加害の歴史にも向き合い、多面的に捉える必要性があることを痛感しました。原爆資料館では、事前に中尾さんから「展示室入り口まで年号を遡るスロープを下りて行く」と、カチカチと聴こえる時計の音が原爆投下の場面で止まり、無音になる」と聞いていたので、より深く理解することができました。ガイドの山崎さんからは、展示物の背景や被爆者の複雑な思いを伝え聞き(左写真)、生存者にも「生き残って良かった」と言い切れない深い苦しみがあることを改めて感じました。

長崎の町……。そして、これからも長崎の歴史を見守っていくであろうクスノキの、今は青々と葉が茂り堂々と立っている姿に感動しました。

この旅を通して戦争は遠い世界の話ではなく、知ること初めて自分事になると実感しました。平和教育がある長崎では、やはり市民の不戦への思いが強いのです。一方、北海道では高校生平和大使が活動の話をして、も、「すごいね」と他人事のように受け止められる場面が多いそう。私自身も長崎に行くまでは同じ

でしたが、知ること意識は大きく変わりました。

世界では今も戦争や紛争が続いています。もし日本で戦争が起きたら……そう想像すると、戦争は決して他人事ではありません。だからこそ、NO MORE WARの思いを強く持ち続けたいと感じました。最後に、組合員みなさんのカンパによつて貴重な機会をいただけたことに深く感謝いたします。



平和祈念式典



被爆クスノキ前でお焼香

物や人々の想像もできない痛みや悲しみ、命の価値に比べたら、1人分のお金にも満たないと思います。世界から戦争がなくなり、誰もが平和に暮らせる世の中になってほしいです。



平和行動報告集会

日時：10月10日(土) 13時～
場所：北海道クリスチャンセンター

みなさんのカンパで送り出した
4名の報告を聞きに来ませんか。



左から中瀬さん(職員)、濱塚さん、今田さん(文化委員)、須藤さん

北海道に核のゴミは いら ない！

原発からは極めて危険な核のゴミが出続けていて、処分の見通しも立っていません。生活クラブは、幌延町に核のゴミ貯蔵施設の誘致計画が表面化した 1980 年代から、地元の方々と共に反対運動に取り組んできました。今年で 27 回目となる幌延サマーキャンプを報告します。 〈7/25・26〉

原発ゼロ・市民エネルギー委員会 増田 真依子

1 日目

幌延の核のゴミ処分研究を考える「サマーキャンプ」に、今年は組合員の家族を含め 21 人で行ってきました。朝早く札幌を出たバスは豊富町へ向け海岸線を北上し、小平町でタコザンギを楽しみつつ 13 時過ぎに到着しました。



「はろのべ核のゴミを考える全国交流会」では、生活クラブの活動として、日本原子力研究開発機構（以下 JAEA）に 2028 年 3 月末の研究終了期限を守るよ

う求めていること、幌延町・北海道・JAEA が行う確認会議への意見提出と傍聴、道議会 特別委員会の傍聴、幌延町への要望書提出、毎年、町民の方へのチラシまきで言葉を交わすことを報告しました。すべて小さな動きですが、市民へきちんと説明するよう求めることへ着実につながっています。交流会では他に、原子力資料情報室の高野聡さんから処分地候補である南鳥島の状況や、寿都町・豊富町・稚内市などからの話がありました。

宿泊先の豊富町セミナーハウスでは、現地で活動する人たちと原発や核ゴミについて語り合いました。



実行委員会メンバーが作ったカレールイスで晩ごはん

2 日目

翌日は深地層研究所の見学、JAEA への申し入れをしました（写真）。研究所があることで国から交付金が入る幌延町は、今後どうしていくのか。研究を終えるとは言わない JAEA がどう説明していくか。北海道はどちらを向いて何をするのか。研究終了まで残りわずか、注視してください。そして一緒に幌延に行きましょう！



署名用紙

泊原発 3 号機の再稼働を中止し再生可能な自然エネルギーの活用推進を求める署名にご協力ください！ 9 月末まで



理事会より

理事会からの報告、委員会活動をお伝えします。



組織活動推進会議

紹介キャンペーンがはじまりました。生活クラブに関心がありそうな友達や知り合いを紹介すると、生活クラブがサンプルをお届けして、加入をすすめます。チラシ裏面の紹介用紙に必要な事項を記入し、配達時、提出してください。



チラシは、生活クラブのHPからダウンロードできます

私たちの消費材を食べ続けるためには、食べる仲間（買う力）を増やすことが大切です。ぜひキャンペーンを使って、生活クラブを拡げましょう。

「おいしいから、たべてみて♪」

生活クラブのミートボール&ケチャップ



キャンペーンは10月31日まで。
たくさんの人に試してもらおう！



石けん運動委員会

漁協・農協・生協など51の協同組合とともに、環境にやさしい石けんの利用と、水環境保全を呼びかける全国統一行動をおこなっています。7月の「シャボン玉月間」では、支部運営委員や石けん運動委員が各自自治体に出向き、ポスター掲示やメッセージをもらう活動をおこないました。公共施設の石けん利用、香害の啓発ポスター掲示につながる貴重な活動です。

組合員みなさんに合成洗剤と石けんの違い、石けんの使いこなしを伝える出前講座の依頼が少しずつ増えてきました。来月は石けんカフェも開催します（P8参照）。ぜひ、ご参加ください。



前回の石けんカフェの様子。ダウンジャケットの手洗い実演や、バスボムづくりをしました（3/4）

組織概要

組合員数は昨年同月より249人減です。組合員全員で、拡大に力を入れる必要があります。

組合員数（8月度）	11,862人
加入者数（8月度）	41人
脱退者数（8月度）	55人
共同購入利用高（9月度）	214,694,930円
1世帯当たり	18,099円

生活クラブは、組合員が出資・利用・運営をする生活協同組合です。

●「脱原発・再エネ推進アクション」署名運動を、10～12月末まで実施することにしました。

●福祉基金報告集会を12月5日に行うと、福祉担当理事会より報告がありました。

●カスタマーハラスメント防止の基本方針と、9月から運用する対応マニュアルを確認しました。

●9月3週配布から、「生活クラブニュース」について案内を刷新することを確認しました。

●展示説明車「あみーか」、及びイベント試食の食品事故防止マニュアルを確認しました。

8月の理事会報告

核のゴミ問題を考える

寿都町と神恵内村では、高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定のための文献調査が行われています。国や北電の話をものま信じていいのか…少しでも疑問に感じる方はぜひ、ご参加ください。核ゴミ問題を学ぶ、3連続企画です。

①「地学から学ぶ」

北海道教育大学名誉教授 岡村 聡 氏

- ・日時 10月14日(水) 10:00～12:00
- ・場所 札幌エルプラザ2階 環境研修室

②「南鳥島での核ゴミ地層処分の問題点」

原子力資料情報室 高野 聡 氏

- ・日時 10月23日(金) 10:00～12:00
- ・場所 札幌エルプラザ2階 環境研修室

③フィールドワーク「寿都町を訪れる」

- ・日時 10月24日(土) 7:50集合 17:15解散予定
札幌駅からバスに乗って現地を訪れます。

ニュース
9月3週

主催 原発ゼロ・市民エネルギー委員会

つくる手 食べる手 その手はひとつ

わくわくまつり

11月8日(日) 11:00～14:30

グランドメルキュール札幌大通公園

札幌市中央区北1条西 11丁目

食べて、買って、遊べる楽しい一日♪

生産者イチオシの試食もできますよ

Information

イベントの詳細や申込みは、ホームページの生活クラブニュース(第1・3週更新)をご覧ください。



ニュース

問合せ：生活クラブ本部 ☎ 011(887)8891

石けんカフェ

日時 10月11日(月・祝) 10:00～12:00

場所 札幌エルプラザ2階 食材研究室

内容 石けん類を使った掃除方法を学びます。参加者みんなで、自宅にある汚れが落ちなくて困っているものを持ち寄り、汚れの落とし方を考えます。

ニュース
9月3週

主催 石けん運動委員会

『この子たちの夏』朗読会

日時 10月25日(日) 10:00～12:00

場所 札幌エルプラザ2階 消費者サロン1・2

内容 平和のための朗読劇『この子たちの夏 1945ヒロシマ ナガサキ』を上演します。親子でもお一人様でも参加OK。平和について考えてみませんか。

ニュース
10月1週

主催 文化委員会

エッセイ つむじ風

結局のところ、「自分の幸せ」のため

白石支部 林 茉衣子

金^{カネ}だけ、今だけ、自分だけがよければよい。実際にその口にする友人が私の周りにもいる。それも一人ではない。自分勝手な言葉に腹が立つ。憤慨ついでに「自分の幸せのためだけ」をよくよく考えてみる。

私が幸せであるためには、家族が幸せでなくてはならず、ということは、息子達が将来幸せな子育てができる環境がないと、きっと私は幸せになれない。息子が幸せであるためには、そのまた子が幸せな子育てができなければならない…。自分の幸せのためだけに、何世代も先を見越さなければならぬではないか。その上、日々穏やかに暮らすためには、関わる人たちも幸せでなければ、結局のところギスギスして生きている。また、災害や戦争のニュースをみれば、自分の心が騒がしいことよ。

なんとまあ、「自分だけよければよい」の範囲の広いことか。そんなことを考えるのと考えながらおやつを食べて、今日も自分を甘やかす。

みなさまからのエッセイを募集します。4000字程度。テーマの指定はありません。詳しくは、本部中瀬までお問い合わせください。

